

ネットワーク 本源へ、世界へ

東北大学文学部
同窓会会報
2012年9月
vol.5

2008年に文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行しています。年1回、定期的に発行していきますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご利用ください。

盛大な入学式で、新総長から 「リベラルアーツ」への言及も



2012年4月5日、2012年度の入学式が開かれました。2011年度は、東日本大震災の影響から、学内の施設で学部別に5月6日に開催という変則的なものでした。それから1年弱、東北大学キャンパスも仙台市の環境も旧に復しつつある中で、これまでどおり仙台市体育館を会場としての盛大な全学入学式となりました。

お祝いの言葉に立った里見進新総長(前東北大学病院長)は、大学として「ワールドクラスへの飛躍」と「東北復興の先導」を目指す中で、人間力あふれる社会のリーダーを育成するため、その素養の土台となる「リベラルアーツ」を充実させ、社会の要請に応えるべく変革して行かねばならないと考えていることなどのメッセージを送りました。文学部・文学研究科において常日頃口にされているキーワードが、総長の新しい理念の中心に置かれた形となりました。



10学部・2,441人、 16研究科・2,436人が 次の進路へ

入学式に先立つ3月27日、同じ仙台市体育館を会場に、2011年度卒業式が行われました。これもまた、2年ぶりのことです。文学部2,441名、文学研究科2,436名も、新しい進路へと旅立ちました。



「考えるということ」 vol.7が発行されました。

東北大学文学部・文学研究科の情報誌として発行している「考えるということ」の第7号が2012年7月中旬に発行されました。

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」について考えていく上で不可欠な記録と記憶の形、及びその伝達と利用の方法について深める内容となっています。

第7号の主な内容

- ▶企業との対話⑥…P2～9
TBC東北放送(株)・氏家悟取締役営業局長&社会学・正村俊之教授
3.11東日本大震災からリスク・コミュニケーションの「これから」を考える
- ▶歴代研究者メモリアル⑦…P15～18
実証的な文献批判にもとづく中国思想史研究を確立した
武内義雄博士
- ▶文学部の研究紹介⑦…P19～25
英文学 岩田美喜准教授
イエイツ、シング、シェリダン父子からアイルランド演劇へ
- ▶文学部ゆかりの宝もの⑦…P32
北から見た日本史・日本文化研究を支える 秋田家史料
- ▶図書館・書店との対話⑦…P10～13
あゆみBOOKS仙台店との対話
- ▶トピックス…P30～31
創立16年目、東日本大震災以後の東北大学出版会に注目

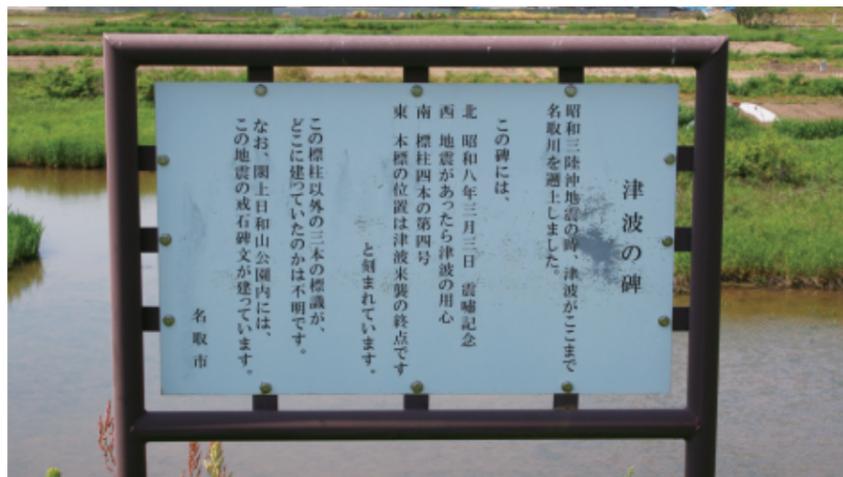


記録をどのように活かしていくか…

東日本大震災以後、被災した東北の沿岸各地で、過去の天津波を記録した文書や碑が存在していたことが分かってくるとともに、なぜそれらが活用されてこなかったのかといったことが話題になりました。たとえば東北大学出版会でも、『津波の恐怖―三陸津波伝承録』を2005年には出版し性訴えた山下文男氏の『津波の恐怖―三陸津波伝承録』を2005年には出版していました。

また、今回、大きな津波被害を受けた仙台地区沿岸部でも、「考えるということ」vol.7の表紙に使った「昭和八年三月三日震嘯記念」碑(宮城県名取市)のような碑があり、すぐ近くには、その碑について説明した「津波の碑」の看板も立っています。

東日本大震災という、起こってしまった災害を、後世にどのように伝え、活かしていくか。一緒に考えていくべき課題が、ここにあるのではないのでしょうか。



【発行】東北大学文学部同窓会 〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
tel. 022-795-6087 (月・木 午前10時～午後4時) fax. 022-795-6087 [URL] <http://www.sal.tohoku.ac.jp>
【発行年月】2012年9月

©東北大学文学部同窓会

4月5日の入学式では、引き続き全学新入生オリエンテーション、新入生歓迎セミナーが開かれました。

この新入生歓迎セミナーは、東北大学を代表する研究者が、分かりやすい言葉で講演を行い、世界最先端にある東北大学の研究・教育の魅力の中に新入生を引き込んでしまおうというコンセプトで企画されているものです。今回は学内からは、2011年末にトムソン・ロイターの引用栄誉賞を受賞し、ノーベル物理学賞の候補者ともいわれた「スピントロニクス」研究の大野英男・電気通信研究所教授と、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」の拠点

長として世界を飛び回っている佐藤嘉倫・文学研究科教授が講演者となりました。

佐藤教授は、プログラムリーフレットの中に、別記のようなプロフィールを記し、新入生の無垢な気持ちに呼びかけています。その上で、「人間関係は犯罪を防げるか?—東京を事例として」と題して講演。生活扶助率、犯罪発生率、小規模企業率などのデータを駆使して東京山の手と下町を比較しながら、自営業を中心とする長期的な人間関係(社会学者は「社会関係資本」と呼びます)が犯罪を抑止する働きを持っていると考えられるため、東京下町では貧困と犯罪が結びついてはいない、ことなどを話しました。



ノーベル物理学賞の候補者とも言われた大野英男教授

学生の皆さんへのメッセージ

柔軟な心と態度で チャンスをもものにしよう

私はもともと社会学者はもとより、学者になろうとは思っていませんでした。町工場や個人商店、飲食店が軒を並べる東京の下町に育ったので、子供の頃は自分もそのような自営業に入るものだと思っていました。小中学校の頃はラジコン飛行機に夢中だったので、模型屋の主人になるのが夢でした。今のディズニーランドのある辺りは昔は埋め立て地で何もなかったので、日曜日に友達とラジコン飛行機を飛ばしにいったものです。しかしラジコン飛行機を作るのに必要な計算をしているうちに数学の面白さと美しさに気づき、大学へ行って数学を勉強しようと思いました。ところが大学に入ってみると周りは数学の天才のような人ばかりで、自分の才能では数学の研究をすることはできないと思いました。一方で、社会に対する関心があったので、数学やコンピュータを使って社会の研究を試みようと考え、数理社会学や軽量社会学といった分野を専攻するようになりました。また私はリーダーシップを発揮して集団の先頭に立つタイプではなかったのに、今では21世紀COEプログラムやグローバルCOEプログラムで拠点リーダーを務めています。

このように自分の経歴を振り返ると、自分の思いとは違った人生(キャリア)を歩んできました。若い人たちにお伝えしたいことは、このようなキャリアに対する柔軟な心と態度です。「初志貫徹」も良いですが、さまざまな機会に対して開かれた心を持っていると、その機会をつかんで次のステップに進むことができます。「自分はこういう人間なんだ」といつて縮こまらずに、大きなチャンスをつかんでください。



文学研究科・佐藤嘉倫教授は、「人間関係は犯罪を防げるか?—東京を事例として」と題して講演した

東北大学と文学部の復興状況のご報告と御礼

文学部同窓会会長 大淵 憲一

この夏も暑い日が続きますが、同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。このご挨拶では、何よりもまず、昨年の大震災において東北大学と文学部が受けた被害からの復興状況をご報告しなければなりません。大学ではほとんどの建物が被災し、多くの設備・備品が破損しましたが、昨年度の政府の補正予算に盛り込まれた復旧費による作業が本年度に入って本格化しています。解体・建替工事が行われている建物が25棟あり、一方、他のすべての建物でも、現在、修復工事が進められています。また、設備・備品の更新・修繕は、大型あるいは特殊設備を除いて、概ね完了しています。改築工事をすべて終えるにはあと数年はかかりますが、ハード面での東北大学の復旧は急ピッチで進んでいると言えます。これも政府の手厚い支援と国民の皆様のご理解によるものと感謝しております。

文学部の建物も被災しましたが、幸い速やかに修復作業に入ることができ、この9月末にはほぼ工事完了の予定で、秋学期からは快適な環境で教育研究活動を行うことが可能になるものと期待しています。この間、同窓生の方々からは様々な形でご支援や激励を賜りました。取り分け、昨年、この同窓会誌で被災学生の支援をお願いしましたところ、多くの方々からご寄付をお寄せいただきました。「文学研究科震災復興助成金」という名目でご寄付をいただいておりますが、現在までのところ129件、寄付金総額は約490万円に上っております。その中には、八大学文学部長会議、九州大学文学部親交会、北海道大学大学院文学研究科などの団体も含まれていますが、ほとんどは同窓生の方々からのご厚志です。

私どもとしては、ご寄付いただいた皆様のご芳名を記してお礼申し上げる積もりでしたが、ご寄付の受領にあたって氏名公表の可否をおたずねしておりませんでした。中には公表を遠慮されたい方もいらっしゃるかもしれないと考え、今回は件数と合計金額だけをご報告させていただくことにいたしました。この点、ご理解いただきますようお願い申し上げます。なお、学内の文学研究科教授会では、その都度、寄付者のお名前をご報告させていただいております。

いただきましたご寄付はすべて文学部・文学研究科の被災学生支援に充てさせていただいております。昨年度は37名の学生に支援金として合計185万円を給付いたしました。寄付金総額からすると、あと2年間は同規模の支援を続けられる見通しです。支援を受けた学生たちとともに、ご寄付いただきました同窓生の方々に、心からお礼申し上げます。

随所に主となれ

文学部同窓会副会長 菅井 茂

今年三月の「東北大学文学部卒業・修了祝賀会」では、同窓会を代表して次のような饒の言葉を卒業生・修了生に贈りましたので、これでご挨拶に代えさせていただきます。

先ほど「学位記」を授与された皆さん、おめでとうございます。皆さんに饒のことばとして、「随所に主となれ」という言葉を贈ります。この言葉は、どのような場合でも、境遇に負けず自分の本領を発揮し、必要とされる人間になれということです。

皆さんにとりまして、昨年三月十一日の大震災以来この一年間は大変な年であったと思います。あの大震災で、互いに助け合うことの大切さを学んだことと思います。「助け合う」ということは「貴方が・君が互いに必要なのだ」ということです。

私は、昨年仙台市の荒浜小学校と中野小学校に避難し、辛うじて一命を取り留めて救済された人々が避難した仙台市立八軒中学校で、三月十三日から避難所運営を一カ月間しました。避難所運営は、私がリーダーとなって、地域住民と八軒中学校の先生方、若林区役所の職員とそれに応援に駆けつけた神戸市と姫路市の職員の方々で行いました。

四月になると、仙台市は新しく採用した三名を、直ぐ我々の避難所によこして、避難所運営を手伝わせたのです。新採用の彼らは何も教えられないで避難所に来たものですから、何をどうしてよいか分からないのです。そこで、私が彼らに指示して仕事をしてもらいました。初めに本部の清掃とトイレ掃除をしてもらいました。避難所では感染症が一番恐ろしいので、環境を清潔にしておくことが一番大切なのです。その後物資の分別と管理をしてもらいました。それらのことを約十日間一緒に仕事をし、勉強してもらいました。その二週間後、避難所の人々が新たな避難所(サンビア)に移った際は、新採用になった彼らだけで運営を任されたのですが、彼らは積極的に取り組み無事任務を果たしました。それを見て私は「人は必要とされると、何とかやれるものだ」と確信しました。

皆さんがこれから行く職場では、必ずしも自分が勉強してきたことと関係のないことをしなければならないときもあると思います。しかし、「人生は仕事の中でしか学べない」という言葉もあるように、人は仕事を通して自分を鍛えていくものです。だからこそ「自分がいるところで、必要とされる人間になって」ほしいのです。期待しています。

震災復興助成金

「東北大学文学研究科震災復興助成金」へのご協力、ありがとうございました。

昨年9月のネットワーク第4号誌上にてご協力をお願いいたしました「東北大学文学研究科震災復興助成金」については、多くの皆様よりご寄付を賜りました。ありがとうございました。心より御礼申し上げます。なお、ご芳名の掲載については事前に可否をお尋ねしなかったため、今回は見送らせていただきます。

現在までのところ129件、寄付金総額は約490万円に上っております。

東北大学文学部では、被災によって就学困難となった文学部の学生の経済的支援をたいへん重要な課題と考え、今後も真摯に取り組んでまいります。

引き続き、「東北大学文学研究科震災復興助成金」へのご理解とご協力をお願いいたします。

文学部同窓会の皆様には、「東北大学文学研究科震災復興助成金」について、引き続きご支援を賜りたく、ここにお願い申し上げます。前頁に記した文学部同窓会の賛助金の場合、このたび同封する振込用紙に必要事項をご記入の上、ご入金いただくこととなりますが、これとは異なり、右記のような順にご寄付の手続きを進めていただくこととなります。

賛助金とは異なり、寄付金控除の対象となるなどの事情から、お手数をおかけいたしますが、ご高察の上、ご協力をいただけますならばまことに幸甚に存じます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 同封の寄付申込書に必要事項を記入し、押印の上、文学部会計係宛にご郵送いただきます(郵送用の封筒のご用意と送料のご負担をお願いすることとなりますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます)。

【宛先】 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学部・文学研究科会計係

2. 会計係から寄付を申し込まれた方に振込依頼書をお送りいたします。

振込依頼書により、金融機関にて振り込んでいただきます。(みずほ銀行及び七十七銀行の本店・支店でのご振込に限り、振込手数料が無料となります)。

なお、金融機関から領収書が発行されます。寄付金控除の手続きをされる場合には必要な書類となりますので、たいせつに保管してください。

3. ご入金を確認いたしましたら、お礼状をお送りいたします。

次回より、ご寄付いただいた皆様のご芳名を記載させていただきます。

特別報告

哲学科卒業の同窓生より、多額のご遺志をいただきました。

このたび、哲学科卒業の同窓生のご遺志とのことで、ご遺族より多額のご寄付をお振込みいただきました。「学生の奨学」「研究発展」の一助としていただきたいとの志が込められた貴重なものであることを、ご報告いたします。

これからも、賛助金、震災復興助成金とは別に、自由なご寄付をお受けいたします

同窓会賛助金

ありがとうございました。引き続き、多くの会員の皆様から本会への賛助金をいただきました。

一昨年9月、『ネットワーク』第3号誌上にて、本会の活動に対する賛助金(1口2,000円より)を募集いたしました。昨年に引き続き本年度も、250人の会員の方々から、合わせて174万3000円ものご寄付を賜りました(2012年7月末日まで)。心から御礼申し上げます。ここに、深甚の感謝の意を込めてご芳名を記します(敬称略にて失礼いたします)。

賛助金をくださった皆様(50音順(平成21年版会員名簿の索引の順))

青柳和子 我妻建治 秋山靖夫 秋吉亨 揚妻祐樹 跡邊孝子 阿部兼也 阿部道彌 荒川晶子 飯塚豊 飯野光孝 伊狩弘 池田憲和 石井昌一 石井浩 石山喜章 磯田熙文 板橋征二 市川裕子 伊藤香美子 伊藤貢士 伊藤紀彦 井上説史 今泉ヒナ子 岩井暁 内ヶ崎末雄 宇津木えつ子 宇賀賀七郎 江川正志 遠藤栄一 遠藤克子 遠藤祐純 遠藤好英 及川真介 大内庸子 大江トミ 大久保巨彌 大島静子 大竹隆文 大山繁 岡田重精 尾形朝可 尾形良道 尾崎恭一 小田三千子 小野國友 小山美雪 加賀美常美代 葛西健司 加藤孝義 門脇禧枝 金澤亮治 金子澄子 紙屋秀樹 川合安 河原田徹 神田直子 木村武 楠田格 熊谷公平 栗原稔 黒滝至 桑原莞爾 小泉恵一 小出光 河野亮玄 神山登 小島弘之 小関廣明 小関昌幸 小林繁雄 小林裕満 駒居貴之 小松一郎 小森正信 斎藤顕政 齋藤直 齋野良吉 坂井浩和 酒井礼子 寒河江敬史 坂田安儀 佐々木清美 佐々木春 佐々木靖章 笹森健壽 佐治芳造 佐藤修 佐藤玄 佐藤宏一 佐藤孝己 佐藤弘夫 佐鳥英雄 佐野督郎 沢田瑞穂 茂林友道 司東和光 澁澤良一 渋谷富業 鳥越郎 下河部行輝 白石和弘 白崎けい子 末澤久和 菅原勝志 菅原寛行 杉村泰教 鈴木好 鈴木正行 鈴木安利 鈴木瑠璃子 須田吉三 須藤隆 住宏平 清田文武 藪部容子 高橋賢 高橋俊二 高橋作人 高橋秀典 高橋将徳 高橋守雄 塚田(高山)潤子 滝浦静雄 田口敬太 竹内剛也 武重洋一 田沢裕賀 田代幸造 館田誓一 田中康子 田中芳雄 田邊やしま 谷村ふみ子 田野崎昭夫 玉川一豊 知野弘 千葉節子 寺澤浩樹 富澤成美 富張尚樹 内藤幹治 永井信一 中川快然 中島茂 中田基邦 中野方子 中村和子 中村邦夫 中村靖彦 中村義雄 中山邦隆 新野直吉 西田秀穂 西村真一 野口豊 長谷川麻弥 畑山俊輝 花登正宏 濱田淑子 林泰斗 原研二 平岩阿佐夫 平口哲夫 平田ゆみ子 平林香織 平山一藏 富久尾純 福島伸子 福田景道 福田満 伏見俊則 二見修次 古垣玲 古畑麻紗子 星康博 米田富英 前田紀代子 増井典夫 松倉寿 松永隆道 松野達雄 丸子基夫 丸山勇治 水上武夫 村上真完 村上正男 村川光一 本井康雄 森口隆次 森山祥子 谷地森涼子 柳井誠 矢部一弥 山口浩 山崎剛 山中満敬 山中行雄 山中順雅 山本鎮雄 山本佳子 湯浅和之 横山三佳 横山潔 横山利夫 横山萬平 吉川勝彦 吉田節子 吉田隆英 渡邊健治 渡部治雄 渡辺洋司 渡部芳雄 渡辺義之

以上の214名の方々の他に、36名の会員の方からも賛助がございましたが、この皆様につきましては、振込用紙への記入にて、ご氏名の掲載を望まない旨の意思表示等がございましたので、ご芳名を挙げておりません。なお、平成21年版会員名簿の発行以後に、改姓をされた方につきましては、旧姓も記しました。また、逝去された会員の方のご遺族からのご寄付をいただいたことも申し添えます(その場合も、会員のお名前を挙げました)。ご賛助を賜り、まことにありがとうございました。

そして、今後も、本会の活動の活性化を期して賛助金の募集を続けさせていただきます(同様に1口2,000円より募集いたします)。ご協力いただける場合は、同封の振込用紙(口座番号02210-6-5103)をご利用ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災を乗り越えて

3・11東日本大震災から1年余。東北地方太平洋沿岸地域の復旧・復興は遅々として進んでいないとも言われますが、この地に生きるすべての人々が、できることから一歩一歩前に進もうとしています。では、東北大学の中でも特にそれほど大きな被害のなかった川内キャンパスにあって、いち早く平常に戻った文学部・文学研究科においては、どうなのでしょう。震災関連でどのような取り組みが行われているかを振り返ってみましょう。

震災対応 3

『東日本大震災と大学教育の使命』、『今を生きる—東日本大震災から明日へ—復興と再生への提言—』1人間として』を東北大学出版会から



震災対応 1
東北大学防災科学研究拠点、東北大学災害科学国際研究所の活動の中で
3・11東日本大震災直後から、東北大学では東北アジア研究センターに事務局が設けられた「東北大学防災科学研究拠点」において、全学を挙げて地震・津波の構造、原因被害状況、災害時の社会状況、復旧・復興、防災・減災などについての調査、研究が進められています。そして2012年4月には、それらの趣旨と組織を更に発展させるため、新しい研究組織として「東北大学災害科学国際研究所」が設立されました。

また、文学研究科修了の同窓生では、東北アジア研究センターの平川新教授(日本史)、佐藤大介助教、天野真志教育研究支援者、蛭名裕一教育研究支援者(以上3人は、日本近世史・歴史資料保全学)が、防災科学研究拠点と災害科学国際研究所において、歴史資料保存の調査・研究に参加しています。



国際研究所と平川新教授

震災対応 2

東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」活動中
防災科学研究拠点では、活動の大きな柱の一つとして「東北大学アーカイブプロジェクト」みちのく震録伝」に取り組んでいます。今後10年を日処に、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、国内外や未来に共有できるようにしようというものです。

文学研究科では、防災科学研究拠点の一員である阿部恒之教授(心理学)がアドバイザーとして参加しています。



「みちのく震録伝」のHP

もう一つは、座小田豊教授(哲学)、尾崎彰宏教授(美学・西洋美術史)編『今を生きる—東日本大震災から明日へ—復興と再生への提言—』シリーズの第1巻「人間として」(2012年3月)です。メモのように文学研究科の研究者が一堂に会し、文学・哲学・倫理学・宗教学などの立場からの論稿を1冊にまとめあげています。

- 『今を生きる—東日本大震災から明日へ—復興と再生への提言— 1人間として』執筆陣
・まえがき—「人間として」問いかけること…座小田豊教授(哲学)
・「今を生きる」ということ…野家啓一教授(哲学)
・死者からのまなざし—生きること・生かされること…佐藤弘夫教授(日本思想史)
・宮城の海浜風景—その宗教的意味について考える…長岡龍作教授(東洋・日本美術史)
・「縁」—御伽草子『ものくさ太郎』に学ぶ…佐倉由泰教授(国文学)
・語ることは「いま」を生きること…名嶋義直教授(日本語教育学)
・東日本大震災で体験したこと、感じたこと、考えたこと…阿部恒之教授(心理学)
・東日本大震災の土葬選択にみる死者観念…鈴木岩弓教授(宗教学)
・日本人と震災と宗教…木村敏明准教授(宗教学)
・己の而今…戸島貴代志教授(倫理学)
・精神の生活—「震われた者たち」の「記憶」と「ふるそと」の根源的力について…座小田豊教授
・あとがき—終わりなき闘いの始まり…尾崎彰宏教授(美学・西洋美術史)

震災対応 4

震災以後に対する教職員の出版物にも注目

原子力問題やリスク・コミュニケーションに関する著作も目につきます。長谷川公一教授(社会学)が、単著『脱原子力社会へ—電力をグリーン化する』(岩波書店/2011年9月)、共著『核燃料サイクル施設の社会学』(有斐閣選書/2012年3月)を出版して原子力発電所関係の発言をまとめています。

また、正村俊之教授(社会学)は、共同編集によってまとめた『東日本大震災と社会学—提起された(問い)をめぐって』(ミネルヴァ書房/2012年10月頃)を近刊予定です。

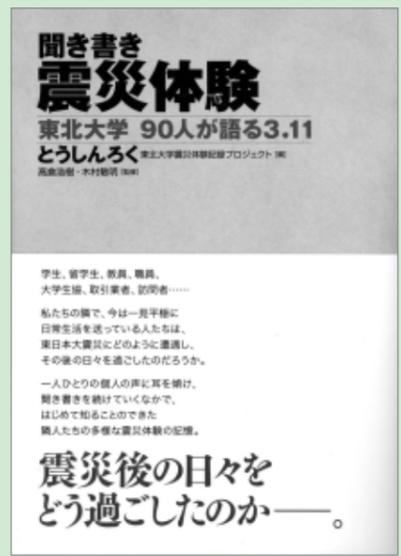


『脱原子力社会へ—電力をグリーン化する』

Topics Column

『聞き書き 震災体験 東北大学90人が語る3.11』で教職員・学生も発言

文学研究科・木村敏明准教授(宗教学)が東北アジア研究センター・高倉浩樹准教授と共同監修した『聞き書き 震災体験 東北大学90人が語る3.11』(新泉社)は、是非とも読んでもらいたい一冊です。二人は共同世話人となって、2011年5月に教職員・学生スタッフと共に「東北大学震災体験記録プロジェクト(とうしんろく、と略称)」を立ち上げ、東北大学の教職員・学生に震災時の体験や知見を聞き取りする作業を始めました。そして2012年3月、90人への聞き書きをまとめて出版したのが本書です。プロジェクトスタッフに参加した、文学部・文学研究科所属の菊谷竜太さん・栗田英彦さん・関美菜子さん・滝澤克彦さん・土佐美菜実さんが「運営ボランティアの声」を記し、木村准教授が「おわりに」を記して締め括っています。「おわりに」からの引用をご覧ください。



■「とうしんろく」スタッフと、「運営ボランティアの声」見出し

- 菊谷竜太さん(文学研究科インド仏教史研究室元助教、現専門研究員)
◆こころのものさし
栗田英彦さん(文学研究科宗教学研究室博士課程)
◆癒しとしての「とうしんろく」
関美菜子さん(文学部文化人類学専修3年)
◆「3・11」を語り聴くということ—自分への問いかけ

- 滝澤克彦さん(文学研究科宗教学研究室専門研究員)
◆雑多な体験を拾い上げ、記録するということの意味
土佐美菜実さん(文学研究科宗教学研究室博士課程)
◆「とうしんろく」の活動を振り返って

■「おわりに」より

「とうしんろく(東北大学震災体験記録プロジェクト)」の活動の成果をこうして書籍のかたちにまとめることができ、今は少しほっとした気持ちです。セッションでさまざまな立場の東北大学関係者のお話をうかがっていくうちに、これは私的な記録として本棚の片隅にしまいこんでしまうべきものではないとひしひしと感じるようになったからです。その予感が確信に変わったのは、共同世話人の高倉さんと一緒に合宿をして、これまでの記録をすべて読み直したときでした。東北大学という一つの組織に集う者たちが、自然災害という外部の力にいかにかき込まれ、あるいは抗しながらそこを生き抜いてきたかについての記録として、それは思った以上の厚みと迫力を持っていました。そして、そこには東北大学関係者のみならず、より広く大学人や、大学という制度を維持している現代社会を生きる人々に読み、考えてもらいたい問題が多く提起されていることに私たちは気づいたのです。(後略)

1 著作発表

教授陣の著作発表も、さまざまに

文学研究科の研究成果は、出版という形でも発表されています。
2012年には、前述した座小田豊教授(哲学)と尾崎彰宏教授(美学・西洋美術史)共同編集の『今を生きる―東日本大震災から明日へ!復興と再生への提言―1人間として』のほか、沼崎一郎教授(文化人類学)の共同編集になる『つなぐりの文化人類学』(2012年2月)が東北大学出版会から出版されました。
そのほか、2011年後半〜2012年初めには、次のような研究成果が発表されています。

文学研究科研究者の著作の動向

- 佐藤弘夫教授(日本思想史)
 - ◆日本思想史講座<1>古代(2012.4共同編集/ペリかん社)
- 片岡龍准教授(日本思想史)
 - ◆公共する人間<2>石田梅岩(2011.10共同編集/東京大学出版会)
- 嶋崎啓准教授(ドイツ文学)
 - ◆ドイツ語不定詞・分詞(2012.4共著/大学書林)
- 野家啓一教授(哲学)
 - ◆数学者の哲学+哲学者の数学(2011.11共著/東京書籍)
- 座小田豊教授(哲学)
 - ◆コペルニクスの宇宙の生成<3>(2011.10訳書/法政大学出版局)
- 斎藤倫明教授(国語学)
 - ◆これからの語彙論(2011.12共著/ひつじ書房)
- フォンガロ・エンリコ(イタリア語)
 - ◆イタリア語スピーキング(2011.8共著/三修社)
- 磯部彰教授(比較文化史学)
 - ◆旅行く孫吾空―東アジアの西遊記(2011.9/塙書房)
- 長谷川公一教授(社会学)
 - ◆脱原子力社会へー電力をグリーン化する(2011.9/岩波新書)
- 正村俊之教授(社会学)
 - ◆コミュニケーション理論の再構築―身体・メディア・情報空間(2012.4/勁草書房)
- 佐藤嘉倫教授(行動科学)
 - ◆現代の階層社会<1>格差と多様性(2011.9/東京大学出版会)
- 大淵憲一教授(心理学)
 - ◆人を傷つける心―攻撃性の社会心理学(2011.10/サイエンス社)
- 沼崎一郎教授(文化人類学)
 - ◆交錯する台湾社会(2012.3共著/アジア経済研究所)

2 著作発表

同窓生の著作も次々に

文学部・文学研究科出身の同窓生の著作もさまざまに出版され、注目されています。



文学部・文学研究科出身者の著作の動向

- 青木生子氏(法文学部卒)
 - ◆茅野雅子全集(2012.1共同編集/おうふう)
- 青木美智男氏(文学研究科修了)
 - ◆三くだり半の世界とその周縁(2012.3共著/日本経済評論社)
- 浅田秀子氏(文学部卒)
 - ◆漢検・漢字ファンのための同訓異字辞典(2012.4/東京堂出版)
- 飯倉晴武氏(文学研究科修了)
 - ◆日本人のしきたり手帳<2012>(2011.11/青春出版社)
- 内館牧子(文学研究科修了)
 - ◆十二単衣を着た悪魔(2012.5/幻冬舎)
- 内山淳一氏(文学研究科修了)
 - ◆仙台藩の絵師たち(2011.9/大崎八幡宮)
- 大角修氏(文学部卒)
 - ◆看取りの後に葬儀・墓・供養(2012.4/双葉社)
- 佐藤賢一氏(文学研究科修了)
 - ◆戦争の足音―小説フランス革命9(2012.5/集英社文庫)
- 佐藤憲一氏(文学部卒)
 - ◆素顔の伊達政宗(2012.2/洋泉社)
- 中村彰彦氏(文学部卒)
 - ◆海将伝(2011.11/文藝春秋)
- 早尾貴紀氏(文学部卒・経済学研究科修了)
 - ◆シオニズムの解剖(2011.10共著/人文書院)
- 星亮一氏(文学部卒)
 - ◆幕臣たちの誤算(2011.11/青春出版社)
- 山折哲雄氏(文学部卒・文学研究科修了)
 - ◆臍臓になってもかまわない(2012.5/新潮選書)
 - ◆救いとは何か(2012.3共著/筑摩書房)
- 山形孝夫氏(文学部卒・文学研究科修了)
 - ◆死者と生者のラスト・サパー(2012.4/河出書房新社)
- 山田史生氏(文学部卒・文学研究科修了)
 - ◆絶望しそうなところに道元を読め!(2012.2/光文社新書)
- 矢部良明氏(文学部卒)
 - ◆エピソードで綴る茶人物語(2011.12/宮帯出版社)
- 屋山太郎氏(文学部卒)
 - ◆屋山太郎が読み解く橋下改革(2012.5/海竜社)

3 著作発表

『世界史』『疫病と世界史』など、名誉教授たちの新刊に注目

2011年後半から2012年前半にかけて、ウィリアム・H・マクニール(1917〜)カナダの『世界史(上・下)』や『疫病と世界史(上・下)』が静かな勢いでベストセラーになっています。これは文学研究科の佐々木昭夫名誉教授故人/比較文学・比較文化の翻訳、共訳本です。
そのほか、田中英道名誉教授(日本美術史)、吉原直樹名誉教授(社会学)、ドナルド・キーン東北大学名誉博士(日本文学・日本文化)らの新著、改版・増刷なども目立っています。

2012年6月、大類伸名誉教授と弟子たちに脚光

2012年6月には、中央公論社の中公叢書として出版された『西洋史学の先駆者たち』(土肥恒之)の中で、中世文化からルネサンスへと転換する時代の西洋史研究者として大類伸名誉教授(西洋史学/東北帝国大法文学部在籍1923〜44年)を紹介。併せて、大類の弟子たちとして、法学部で教授の薫陶を受けた平塚博、中村善太郎、山脇重雄、千代田謙、村岡哲各氏の業績まで紹介しています。



写真左から2人目が大類伸名誉教授

4 著作発表

2010年、2011年研究科修了生の著作にスポット

2011〜12年には、社会人として活躍した後に大学院文学研究科で日本史を専攻し、博士課程を修了した2人の研究者の作品が出版されるといってビッククスマもありました。
一つは、2010年修了・橋本今祐氏の『明治国家の芸能政策と地域社会―近代芸能興行史の裾野から―』(2011年7月/日本経済評論社)であり、もう一つは、2011年修了・中島耕二氏の『近代日本の外交と宣教師』(2012年1月/吉川弘文館)です。橋本氏は1928年生まれで経済学、中島氏は1948年生まれで法学を学び、長い勤務歴を経た後に東北大学大学院に入学し、成果を著書にまとめるに至りました。

2012年6月、仁平政人氏、岡崎義恵学術研究奨励賞受賞

また2012年6月16日、2009年に文学研究科を修了し、現在、弘前大学専任講師を務めている仁平政人氏が、日本文芸研究会より第二十九回岡崎義恵学術研究奨励賞を受賞しました。
岡崎義恵は、助教授・教授として東北帝国大法文学部・文学部で教壇に立ち(在籍1923〜54)、日本文芸学の樹立を提唱した国文学者で、日本文芸研究会の創設者でもあり、同賞は1983年に設けられました。仁平氏の受賞は、『川端康成の方法―二〇世紀モダニズムと日本』(言説の構成)をはじめとする優れた研究が認められたものであり、16人目の受賞者です。

文学研究科名誉教授・名誉博士たちの動向

- 佐々木昭夫名誉教授
 - ◆世界史<上・下>(2012.4増刷/中公文庫)
 - ◆疫病と世界史<上・下>(2009.2再版/中公文庫)
- 田中英道名誉教授
 - ◆日本美術全史(2012.4/講談社学術文庫)
 - ◆「写楽」問題は終わっていない(2011.12/祥伝社新書)
- 吉原直樹名誉教授
 - ◆バリ島に生きる古文書(2012.3共著/東信堂)
- ドナルド・キーン東北大学名誉博士
 - ◆百代の過客(2011.10/講談社学術文庫)
 - ◆百代の過客<続>(2012.4/講談社学術文庫)



Topics Column

日本思想史研究者の共同編集・執筆になる『日本思想史講座』シリーズに注目

2012年4月、ペリかん社から、佐藤弘夫教授(日本思想史)と、田尻祐一郎氏(文学部卒、文学研究科修了)が共同編集者として参加している『日本思想史講座』シリーズの第1巻『日本思想史講座<1>古代』が刊行されました。
長岡龍作教授(日本・東洋美術史)が「救済の場と造形」、佐藤教授が「総論 古代の思想」[本地垂迹]を執筆しており、今後の続刊にも期待されるところです。

ご案内 1

第6回「青春のエッセー阿部次郎記念賞」の作品募集

阿部次郎記念賞として全国の高校生・高専1〜3年生も含む作品を募集する「青春のエッセー」は、2012年度で第6回を迎えます。課題作品の課題は「再生」。ゲスト選考委員に高橋克彦さん（江戸川乱歩賞、直木賞作家／盛岡市在住）を迎え、9月30日原稿締め切り、11月3日発表を予定しています。同窓生の皆さまには、周辺の高校生に応募をお薦めいただければ幸いです。



問合せ先
阿部次郎記念賞事務局
<http://www.sal.tohoku.ac.jp/abe/index.html>

青春のエッセー作品集の中国語版も発刊

なお、「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の優秀作品は、毎年、作品集にまとめて出版しています。これまでに刊行した5冊は、それぞれに若干の残部があります。講読ご希望の方は、事務局にご注文ください。また、2011年9月には、第1〜3回作品中31編を収めた作品集が、『思考的青春』のタイトルで中国語に編集され、上海の出版社（山東文藝出版）から出版されました。上海外国語大の日本語・日本文学研究者が校閲に携わっており、日中両国の人間理解につながることも期待されています。

ご案内 4

11月3日、東北大学植物園で「紅葉の賀」

11月3日には、東北大学植物園をメイン会場として、文学研究科・文学部主催の紅葉の賀が開かれます。2011年度は、3・11東日本大震災の影響も乗り越え、例年どおりに開催。午前中には植物園での俳句会、野点、尺八演奏、植物園内ガイド付き散策が行われ、午後には、阿部次郎記念賞青春のエッセーのゲスト審査員である森まゆみさん（作家）による「辛酸、佳境に入る」東北を歩いて考えたこと」の講演、青春のエッセー選考結果報告会、俳句会授賞式が行われました。2012年度も、11月3日午前の部は例年どおりの催しを行い、午後から講演会、青春のエッセー選考結果報告会、俳句会授賞式を行う予定です。



9:00 ~ 13:00 東北大学植物園	9:00 ~ 13:00	俳句会
	10:00 ~	オープニング・セレモニー
13:30 ~ 16:00 東北大学文学部 第一講義室	10:00 ~ 13:00	野点
	10:30 ~ 11:00	尺八演奏
	11:10 ~ 12:30	植物園内ガイド付散策
	13:30 ~ 14:45	公開講演会 牧 雅之（植物園教授）
15:00 ~ 15:30 15:30 ~ 16:00		高橋 章則（文学研究科准教授）
		青春のエッセー 阿部次郎記念賞選考結果報告
		俳句会 授賞式

紅葉の賀

ご案内 2

公開講座やシンポジウムにお出かけください

文学研究科・文学部では、今年も、リベラルアーツサロン、有備館講座、齋理蔵の講座などの公開講座を開催します。「地域再考」をテーマに、内容も多岐にわたっています。存分に活用ください。また、研究室のシンポジウムなどにもお出かけください。

リベラルアーツサロン(2012年度前期)

- 会場：せんだいメディアテーク 問合せ先：☎022-217-4977(東北大学広報課)
- 6月8日 ● 伝統芸能をテクノロジーで未来に伝える…教育情報学研究所・渡部信一教授
 - 7月13日 ● 神話と首狩の宗教民族学…文学研究科・山田仁史准教授
 - 9月14日 ● 「気になる」子どもと発達障害…教育学研究科・本郷一夫教授

有備館講座(第11期)

- 会場：大崎市岩出山公民館・松山公民館
問合せ先：☎0229-72-0357
(大崎市岩出山公民館スコレハウス)
- 5月12日 ● 地域の文化を芝居にしよう!
—イギリスとアイルランドにおけるコミュニティ・ドラマ—
英文学・岩田美喜准教授
 - 6月16日 ● 中国の村落における地域のつながり、祖先とのつながり
文化人類学・川口幸大准教授
 - 7月21日 ● 戦国時代東北の「地域」—新発見「遠藤家文書」から見る—
日本史学・柳原敏昭教授
 - 8月11日 ● 地域の自治と自立を考える—社会学の視点から—
社会学・永井彰教授
 - 9月15日 ● 三蔵法師玄奘が学んだナランダーの地域と大学
インド文化学・吉水清孝教授

齋理蔵の講座(第5期)

- 会場：丸森町・齋理屋敷
問合せ先：☎0224-72-3036
(丸森町教育委員会・生涯学習班)
- 6月2日 ● 失われた遺跡の再発見
考古学・鹿又喜隆准教授
 - 7月7日 ● 死者の記憶と世代の継承
心理学・辻本昌弘准教授
 - 8月4日 ● 中国の思想と宗教における広東
中国思想・齋藤智寛准教授
 - 9月1日 ● 外国人とともに生きる
—地域における共生を考える—
行動科学・永吉希久子准教授
 - 10月6日 ● 一条の光
倫理学・戸島貴代志教授

東北文化研究室主催シンポジウムのご案内

11月24日(土)、25日(日)に、東北文化研究室主催のシンポジウム「表象としての身体」(仮)が開催されます。多くの皆様のご来聴をお待ちしています。

ご案内 3

10月6日、105周年ホームカミングデー

10月6日(土)には、川内キャンパスの東北大学百周年記念会館川内萩ホールを会場に、東北大学恒例のホームカミングデーが開かれます。

ちなみに2011年度は、10月8日に開催。メインイベントである仙台セミナーでは、「医学と工学をむすぶ—超高齢化時代に向けて」をテーマに、国際医療福祉大学・北島政樹学長による「医工学連携 今後の方向性」の基調講演やシンポジウムが行われ、記念コンサートでは、東北大学混声合唱団、男声合唱団、東北大学交響楽団などによる演奏・合唱等が行われました。



Information Column

世界へ飛躍するために—「グローバル萩海外留学生奨励賞」について

東北大学の学部・大学院の学生は、東北大学教育・学生支援部留学生課が進めている大学間及び部局間交流校への交換留学をすることができます。そして成績優秀者は、東北大学基金からの「グローバル萩海外留学奨励賞」を受賞し、留学費用の一部について支援を受けることができます。2011年12月には、これまでの秋学期留学に加えて、春学期留学の募集及び基金からの表彰も始まり、文学部・文学研究科の学生は2011年度年間で6名(受賞者合計は14名)が受賞し、留学を実現しています。

この東北大学基金は、東北大学100周年記念事業の際、財団法人東北大学研究教育振興財団を通して東北大学へとお送りいただいた寄付金の残額を基本として2008年に誕生したものです。同窓生の篤志が、海外留学希望者にも反映されているのです。

海外留学体験者たちの体験談にも注目を

この「グローバル萩海外留学奨励賞」受賞者たちは、留学を終えて帰国すると、報告書を提出することになっています。その報告書が、東北大学基金事務局(東北大学総務部広報課内)のホームページで見ることができます。
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/>

■2010年度留学奨励賞受賞者の報告書からの一部引用

島貫洋平さん(アメリカ・カリフォルニア大学アーバイン校)
(前略)現在、私には世界10カ国以上に家族と呼べる一生の仲間がいます。これは1年の留学を通して得た何ものにも代えがたい宝物です。以上、私が交換留学を通して得られたものほんの一部をご報告させて頂きました。この9か月という期間は間違いなく私の人生において最も充実したドラマチックな最高の9か月間でした。このような素晴らしい体験をさせて頂き、大学関係者の方々を始め様々な面で私の留学を支えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

篠原希さん(スウェーデン・ウプサラ大学)
(前略)私は留学するまで、日本人以外の友達をもったことがありませんでした。しかしこの1年を通して、たくさんの新たな出会いがあり、全く違うバックグラウンド、言語、外見を持つながらも、一緒にさまざまな経験を共有し、楽しい時間を過ごすなかで、たくさんの友達、さらに親友と呼べる友達もできました。(後略)



■2011年度留学奨励賞受賞者

- 文学部3年 関本佑太郎さん(フランス・リヨン第2大学)
- 文学部3年 宮部沙織さん(フランス・ストラスブール大学)
- 文学部3年 高橋くるみさん(スウェーデン・ウプサラ大学)
- 文学部3年 工藤知南さん(スウェーデン・ウプサラ大学)
- 文学部3年 後藤龍之助さん(スウェーデン・ウメオ大学)
- 文学研究科M2 石田雄樹さん(フランス・リヨン高等師範大学)



2010年度は、島貫洋平さん、篠原希さん、尾形真梨さん(いずれも当時、学部3年)が受賞し、その体験談を報告しています。留学を考えている学生諸君には、貴重な参考資料となるでしょう。

尾形真梨さん(シンガポール・シンガポール国立大学)
(前略)長期の休みの間は周辺各国を旅行して過ごしました。日本とはまったく違う雑雑な町並みや、お金をせがむ人々や旅行者から少しでもお金を多く取ろうとするタクシーの運転手など、シンガポール以上に多くのカルチャーショックを経験しました。そのような経験から、日本の途上国への支援などに関わり方に興味を持つようになりました。(後略)

